

二谷小学校の建替えに伴う 学校規模適正化に関する説明会報告

発行日：令和3年9月1日

発行：横浜市教育委員会事務局
施設部

＜開催日時・会場＞

◆令和3年7月29日（木）

二谷小学校 14：00～15：00 参加者：44名
斎藤分小学校 18：00～19：00 参加者：63名

◆令和3年7月30日（金）

斎藤分小学校 14：00～15：00 参加者：65名
二谷小学校 18：00～19：00 参加者：25名



説明会の趣旨

本市の学校建替事業は、平成29年5月に策定した「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」に基づき、取組を進めています。

今年度、二谷小学校は、最も古い校舎棟が築65年となり、目標耐用年数の築70年が目前に迫っているため建替えに向けた検討を行います。また、同基本方針では、学校建替えに併せて学校統合も検討するとしているため、地域、保護者の代表及び学校長からなる検討部会を設置し、小規模校となっている隣接の斎藤分小学校との学校統合も含めた検討を行うことをお伝えしました。

1 「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」（概要）

- ・昭和56年以前に建設された学校を建替え対象校とし、目標耐用年数は築70年としています。
- ・対象校のうち、平均築年数が古い学校から順次建替えることを基本とし、最古の校舎の築年数が原則として70年を超えないように選定しています。
- ・建替えは、全面建て替えを基本とし、小規模校化が見込まれる場合等は、学校規模適正化の検討のため建替えを見送るとしています。
- ・建替えを進めていく際には、①校舎の機能改善、②近隣の小規模校の適正規模校化（学校統合）の検討、③他の公共施設等との複合化の検討 の3つの視点を必ず検討するとしています。

2 二谷小学校と斎藤分小学校の現況等

（1）開校年等

学校名	二谷小学校	斎藤分小学校
開校年	明治38年度	昭和33年度
親校	—	二谷小学校、神橋小学校

（2）児童数・学級数（令和3年5月1日現在）

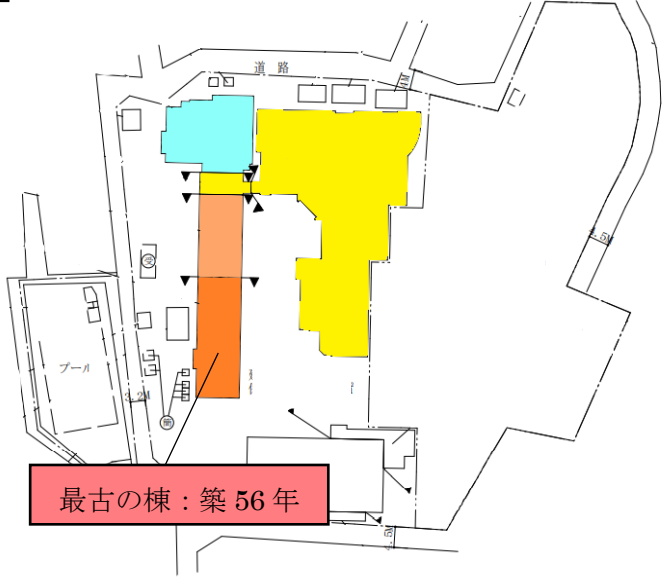
- ・二谷小学校 一般学級の児童数358名・13学級（各学年2～3学級）の適正規模校
また、13名の児童が個別支援学級に通っています。
- ・斎藤分小学校 一般学級の児童数189名・6学級（各学年1学級）の小規模校
また、12名の児童が個別支援学級に通っています。

(3) 校舎等

◆二谷小学校

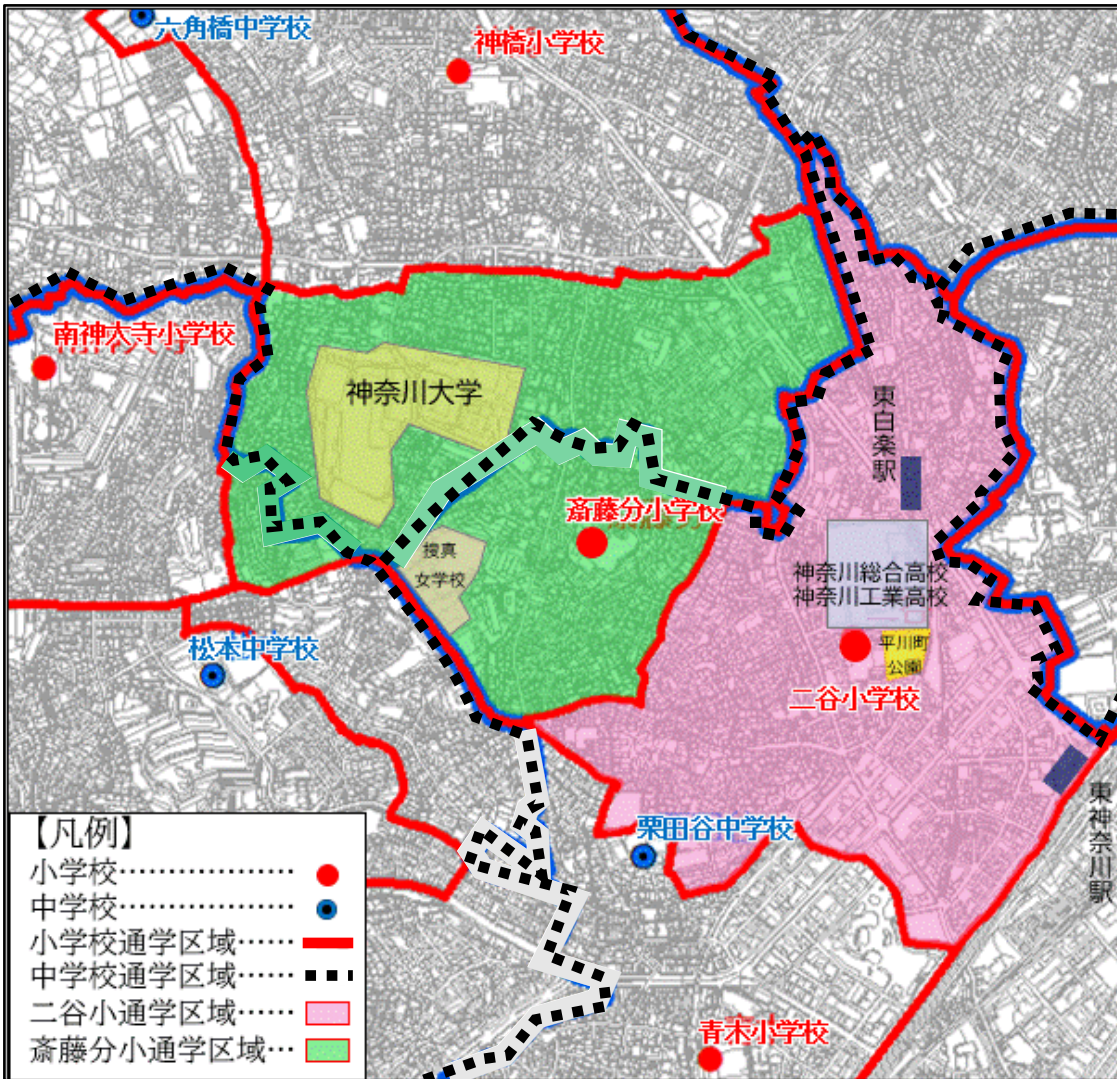
◆齋藤分小学校

最古の棟：築 65 年（市内で最古）



最古の棟：築 56 年

(4) 通学区域



(5) 今後の一般学級児童数・学級数の見込み (段階的 35 人学級導入対応)

二谷小学校	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	普通教室数
児童数 (人)	348	358	389	399	392	388	383	13
学級数 (学級)	12	13	13	13	13	13	13	

斎藤分小学校	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	普通教室数
児童数 (人)	191	189	186	187	184	203	202	10
学級数 (学級)	6	6	6	6	6	7	7	

《令和 2・3 年度》 5 月 1 日現在の実数値

《令和 4 年度以降》 令和 2 年度義務教育人口推計による推計値

3 建替えに伴う学校統合の検討

(1) 建替えに合わせて学校統合する利点

- ・最新の整備水準や仕様により、断熱化された環境の中で空調が整備され、明るい空間やきれいで使いやすいトイレが整うなど、健康的で温もりある機能的な校舎になり、またグラウンドが広がるなど、両校の児童にとって教育環境が向上します。
- ・斎藤分小学校の周辺道路は緊急車両の進入に課題がありますが、学校統合により課題を解消でき、学校における子ども達の安全が向上します。

(2) 斎藤分小学校との学校統合を検討する理由

- ・建替える二谷小学校の近隣にある小規模校で、斎藤分小学校の通学区域は二谷小学校から 2 km 以内です。
- ・斎藤分小学校は、現在 6 学級の小規模校で、今後も適正規模校化 (12 学級以上) が望めません。
- ・斎藤分小学校も、老朽化が進んでおり、目標耐用年数を念頭に置いた老朽化対策も考えていく必要があります。(最も古い校舎は築 56 年)

(3) その他

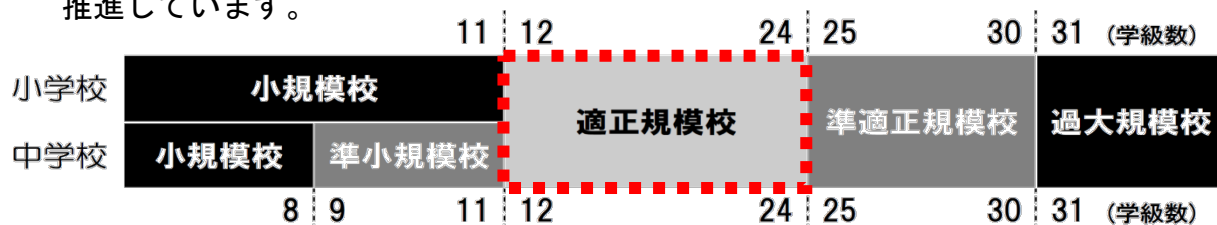
- ・法令により、高さ制限などが厳しい地域にある斎藤分小学校では、両校の児童を受け入れられる校舎を建てるのが困難です。

4 学校の建替えに伴う斎藤分小学校の学校規模適正化の検討について

(1) 適正な学校規模の考え方 (「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」(抜粋))

小学校では 12~24 学級 (各学年 2~4 学級) の学校を「適正規模校」とし、11 学級以下を「小規模校」としています。

→横浜市では、小規模校の課題を解消し、教育環境を改善させるため、学校規模の適正化を推進しています。


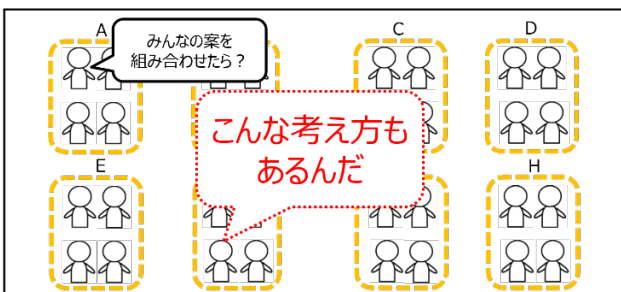


(2) 「小規模校」の特徴

「小規模校」(小学校は一般学級数で11学級以下)は、保護者及び地域の皆様と連携を図りながら、学校の実情に合った教育活動に取り組んでいます。小規模校には小規模校ならではの良さがありますが、課題もあるため、小規模状態の解消に向けた取組が必要です。

	小規模校の利点	小規模校の課題
児童	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士よく知り合うことができ、<u>人間関係が密になる。</u> 縦割り集団行動などで、異なる学年の子ども<u>同士の関係を深められる。</u> 様々な学習活動の場で、<u>それぞれが活躍する機会を持つことができる。</u> コロナ禍において、<u>運動会や卒業式等のイベントをあまり密になることなく実施できる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な個性と触れ合える機会に恵まれにくく、<u>人間関係を修復したり広げたりしていく力や社会性を育てる機会が限られる</u>恐れがある。 運動会などで一定人数が必要な競技が行いにくくなる。 子ども同士の人間関係が固定化しやすい。
教職員	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が校内の子ども全員をより深く理解し、<u>個に応じた指導を行いやすい。</u> 学校に対する保護者の理解や協力を得やすく、<u>学校全体で主体的な対応が取りやすくなる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>授業内容や児童の指導について相談できる機会が減る</u>など、特に、経験が浅い教員の負担が大きい。 <u>一人の教員が担当する事務作業が多くなり、学級経営、教科研究などに費やす時間が制約を受ける。</u>
保護者 P T A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの実態が把握しやすいため、<u>学校と家庭との連携が取りやすい。</u> 保護者同士のつながりが強く、<u>お互いに協力しやすい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 会 員 が 減 少 す る た め に、<u>役員が固定化しやすい。</u> 学校行事などの面で、<u>保護者の負担が大きくなる。</u>

(3) 児童数・学級数が増えると出来ること

友達に関すること	学習等に関すること
 <p>多くの友達と関わり、多様な個性と触れあうことで、自分を知り、豊かな人間関係を構築するためのスキルを学び、社会性を育むことができます。</p>	 <p>学習や行事などで、クラスの枠を超えた小集団での活動が可能となるため、多様な意見に触れ、自分の考えが広がったり深まったりして、より学習効果が高まります。</p>

(4) 学校統合により検討を必要とする事項

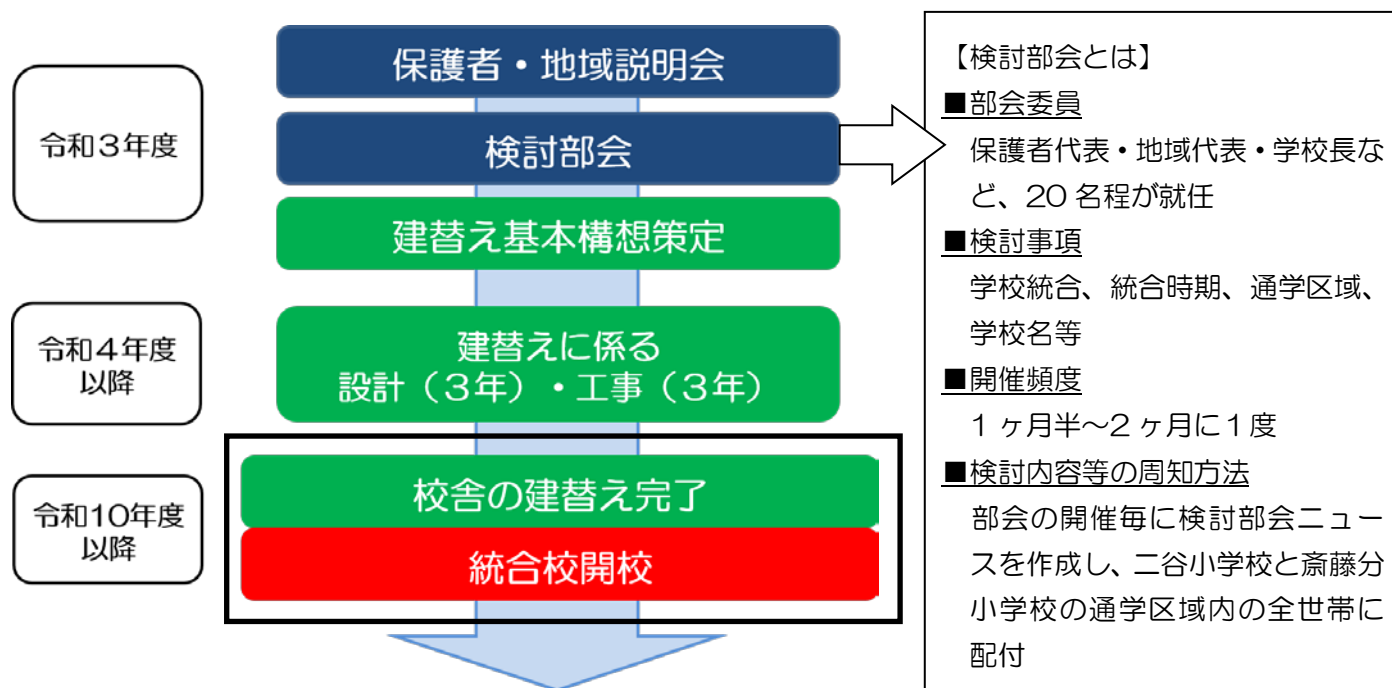
ア 新たな通学路の検討・設定

学校統合により斎藤分小学校の児童は二谷小学校に通学することになるため、通学安全に配慮した新たな通学路の設定が必要となります。

イ 両校の歴史の継承方法の検討

学校統合にあたっては、両校を閉校し、統合校を新たに開校することを原則とするため、両校の歴史をどのように統合校に引き継いでいくかを検討する必要があります。

5 今後のスケジュール（想定）



6 保護者説明会における主なご質問・ご意見（☆:ご質問・ご意見、→:学校計画課からの回答・説明）

■【ご質問】

《建替え関係》

☆ 目標耐用年数を築70年としている中で、築70年に達しない校舎も含め、すべての校舎の建替えを行う必要があるのか。

→校舎の全面建替えを行うことで、グラウンドが広がる等の機能改善を図ることができるため、建替えの基本方針では、全面建替を基本としています。

☆ 文部科学省が小学校の設置基準を定めており、現二谷小学校のグラウンド面積はその基準を大幅に満たしていない。今回の建替えにあたって、どのような学校を作っていくのか。

→仮に学校統合した場合は、エレベーターの完備などバリアフリーに十分配慮したうえで、5階建ての校舎を想定しています。建替計画はこれから検討していきますが、120mトラックや50m直線トラックを確保するなど、現在のグラウンド面積よりも大きくしていく考えです。

☆ 設計から工事が終わるまで6年もかかる理由はなにか。

→基本構想に1年程度、基本設計に1年程度、実施設計に1年程度かかるため、設計に3年程度かかります。その後工事が3年程度と見込んでいます。

☆ 建替工事中、二谷小学校の児童は他の場所に通うことになるのか。

→二谷小学校の児童は現在の校舎に通いながら、建替工事を進めていく考えです。

☆ 建替工事中、プールや校庭が使えない点はどのように対応するのか。

→近隣のプールやグラウンドを、必要に応じて借りるなどの対応が必要になると考えています。

☆ 建替工事中、授業中に発生する騒音等への配慮は行われるのか。

→低騒音工法を採用するなど、学校運営に配慮した工事を進めていきます。なお、現在建替え中の学校において、騒音や振動の問題は発生していません。

☆ 建替工事中、工事車両の出入りがあると思うが、児童への安全対策はどのように行うのか。

→学校と調整しながら、児童と工事車両の導線を分離するなど、児童への安全には万全を期していきたいと考えています。

☆ 解体工事におけるアスベスト対策はどのように行うのか。

→法令を遵守し、解体工事の前に事前調査をおこなった上で、必要な対策を行います。

☆ 建替えにあたって、隣接する平川町公園は利用しないのか。

→平川町公園の一部に新設校舎等を建設できた場合は、工事中の学校運営への影響は大幅に減り、グラウンドもより広くなるなど、建替え後の教育環境は大変良好になることは考えられます。一方で、公園を利用されている方も多くおりますので、実現には地元のご理解が前提となり、難しい面もあると思っています。

☆ 平成 29 年策定の建替えに関する基本方針は、コロナ禍により改訂の検討が必要ではないか。

→建替えに関する基本方針は、基本的に建物の老朽化に対する対応の方針であるため、コロナ禍に関連した改訂を行うことは予定していません。

☆ 年度内に、建替え基本構想を策定するとあるが、統合の有無で建替え校舎の規模が変わってくるため、検討部会での検討が長引けば、年度内に策定することはできないのではないか。

→二谷小学校の建替えは必要ですので、基本構想の策定は進めますが、検討部会での方向性が年度内に決まらないようであれば、基本構想を変更するなど柔軟に対応していくことも考えています。

《学校規模適正化関係》

☆ 統合を前提に資料が作成され、説明会が進んでいるように思うが、統合は決定事項なのか。

→統合が決定したわけではありません。今回、二谷小学校の建替えに伴う斎藤分小学校の学校規模適正化に向けた検討について提案をさせていただいています。今後、開催する検討部会において検討していただきます。

☆ 学校統合をせずに、斎藤分小学校を残したうえで、特色のある教育はできないか。

→公立学校の枠の中で特色を出すことは可能ですが、小規模校の課題を解消するためには、特色を打ち出すより、児童数を増やす方が有効であると考えています。

☆ 斎藤分小学校の通学区域を広げることで適正規模校となるような検討は行わないのか。

→通学区域を広げることで児童数は増えると考えますが、斎藤分小学校の学校規模適正化の関係で、他の小学校の通学区域を変更することは、その地域にお住まいの方々のご了解等を得なければいけませんので、難しいと考えています。

☆ 部会委員の人選はどのように行うのか。

→保護者・地域・学校の代表者に委員になっていただきます。地域・保護者の代表の方々にご相談しながら人選を行い、検討部会のメンバーを決めていきたいと考えています。

☆ 検討部会で検討した結果「統合しない」という結論になる可能性もあるのか。

→検討したうえで、「統合しない」という結論になる可能性もあります。

☆ 斎藤分小学校の児童が二谷小学校に通うとなると、通学距離が長くなる地域があるが、通学区域の調整も検討するのか。

→横浜市では徒歩での通学を前提に、児童生徒の体力・通学安全などを総合的に勘案し、望ましい通学距離を小学校では片道おおむね2km以内と定めております。このような前提のなか斎藤分小学校の通学区域内から二谷小学校までは、2kmを超えることはないと考えています。今後開催する検討部会において、もし仮に統合をする場合、統合校の通学区域について検討していただきます。

☆ 二谷小学校の児童が、建替えがあるので斎藤分小学校に通学したい、また斎藤分小学校の児童が、建替え後に二谷小学校に通学するのだから、最初から二谷小学校に入学したいなどの要望が出た場合、認められるのか。

→横浜市では、住所によって就学すべき学校を指定する通学区域制度を基本としているため、統合までの間は、原則指定された学校に通っていただきます。

☆ 地域や保護者の意見をどのように検討に反映させるのか。

→検討部会で議論した内容や意見などをまとめた『検討部会ニュース』を部会の開催ごとに作成し、保護者には学校を通じて配付し、両校の地域には全戸配布させていただく予定です。『検討部会ニュース』には電話やメール、FAXなどの問い合わせ先を明記し、広く意見を受け付け、いただいたご意見は検討部会の中でご紹介し、検討の参考にしていただきます。

☆ 統合となった場合に、斎藤分小学校の児童は卒業まで斎藤分小学校に通うことができるのか。それとも、統合校の開校にあわせて、一斉に統合校に通うことになるのか。

→仮に統合するという場合には、段階的に入学する、卒業するというのではなく、斎藤分小学校と二谷小学校の児童は一斉に新しい統合校に登校することになります。

☆ 統合となった場合に、両校閉校する理由は何か。

→人数の少ない学校が、人数の多い学校に吸収された形ではなく、両校の児童や保護者、地域と一緒に新しい学校を作りあげていくという意識を持っていただくため、原則、両校を閉校し、新しい統合校として開校しています。

☆ 年度内（令和3年度）に検討を終わらせるには期間が短いのではないか。

→お示ししたスケジュールはあくまでも想定スケジュールであり、年度内に必ず検討を終わらせなければいけないとは考えていません。ただ、検討が長引くと保護者や地域の方に不安を与えてしまう可能性もありますので、ある程度の期間で方向性を出していただきたいと考えています。

《齋藤分小学校の跡地利用関係》

☆ 統合となった場合に、齋藤分小学校の跡地や地域防災拠点はどうなるのか。

→仮に齋藤分小学校と二谷小学校を統合する場合、齋藤分小学校の地域防災拠点を含めた跡地利用については、地域の皆様のご意見を踏まえながら、神奈川区役所や関係局と連携して調整していきます。

なお、他の地域では、跡地利用が決まるまでの期間、暫定的に地域防災拠点として継続使用している事例があります。

■【ご意見】

☆今回の検討は、二谷小学校の建替えが発端であって、齋藤分小学校との統合は必ずしも必要ではないと思います。

☆説明資料にあるような小規模校の課題は齋藤分小学校には当たりません。齋藤分小学校は現在の規模・場所で継続し、小規模校のメリットを追求するほうが良いと思います。

☆齋藤分小学校の良さや地域に対する影響力が評価されていないと思います。齋藤分小学校をどうしたら残せるかという視点も必要ではないかと思います。

☆中学校に進学すると、齋藤分小学校出身の生徒は人数が少ないが、仲間をすごく大切にし、また、学校の経営に関わる生徒会や委員会にも積極的に立候補しています。齋藤分小学校は自主性を育てる面でも良いところだと思います。

☆齋藤分小学校は小規模だからこそ、一人一人が活躍できる場が多いです。統合すると大きな中の一人になり、齋藤分小学校で活かされている良さがなくなってしまうのではないかと危惧します。子どもたちにとって何が一番良いのかを考えてもらいたいと思います。

☆学校統合する場合には、新しい学校名なども検討部会で検討することになるとは思いますが、二谷小学校の歴史を含めて、今後も二谷小学校という名前を大事にしていきたいと思います。



お問い合わせ先

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目 50-10

横浜市教育委員会事務局

(建替えに関すること)

教育施設課

TEL

045-671-3531

FAX

045-664-4743

(学校規模適正化に関すること) 学校計画課

TEL

045-671-3252

FAX

045-651-1417

Eメール

ky-kanagawa2021@city.yokohama.jp

H P

[http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-](http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html)

[kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html](http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html)